

荘司 一步

平成 26 年度 文化科学研究科学生派遣事業 研究成果レポート

1. 事業実施の目的：調査対象地域の選定と調査地に関する予備的な情報収集
2. 実施場所：ペルー共和国 アンカシュ県
3. 実施期日：平成 26 年 9 月 1 日（月）から 9 月 25 日（木）
4. 成果報告

●事業の概要

【研究の概要と事業の目的】

博士論文の作成に向けた本研究では、ペルー共和国の北部海岸地域における考古学的な調査および出土遺物の分析を通して、紀元前 1800 年～800 年頃の生業活動と儀礼活動の歴史の変遷を解明し、文明初期における社会複雑化の過程を明らかにすることを目的としている。特に、公共空間と居住空間で行われる実践活動の差異に着目し、集団を率いるリーダーの戦略と集団形成との関係を通時的な視点から考察する。そのためには、調査対象地域を設定して行う踏査と、公共空間と居住空間を有する遺跡の発掘調査を通して、それぞれの空間における活動の基礎データを蓄積させる必要がある。

本事業の目的は、以上のような研究に向けて調査対象地域を決定するため、調査地に関する予備的な情報収集を行うことである。対象地域の候補となるのは、アンデス山脈から太平洋へと流れ落ちる河川の下流域のうち、ペルー共和国の北部中央海岸にあたる地域である。これらの地域を実際に訪れて、発掘調査に耐えうるような遺跡の有無や残存状況および立地、治安やインフラの整備状況などの情報を収集し今後の研究計画で扱う調査対象地域を選定する。

今回の事業で訪れたのは、北から順に、サンタ川、ネペーニャ川、カスマ川、クレブラス川、ワルメイ川の 5 つの河川下流域である。それぞれ、中心的な町において宿泊し、現地の交通手段を用いて遺跡を訪れた。これらの遺跡はすでに論文などによってその存在が報告されている。研究の対象となる時代は形成期（紀元前 3000～50 年）である。

【実施内容】

（1）サンタ川下流域

訪れたのはコイシュコ遺跡とセロ・ウレーニャ遺跡の 2 つである。

コイシュコ遺跡は同名の町から約 1 km 離れたセロ・コイシュコという丘の北側の裾野に位置している。また、海岸線からは 3km 離れており、すぐ近くにはサトウキビ畑が広がっている。コイシュコ遺跡はメルセデス・カルデナスらによって 1976 年に小規模な発掘調査が行われており、形成期の土器と地方王国期（チムー）の土器が報告されている[Cárdenas 1998]。

コイシュコ遺跡は同名の町の住民によく知られており、容易にたどり着くことができる。遺跡には石壁が多く残っており、各辺が 10m から 50m の方形の部屋状構造を構成している。

同様の建築的特徴を持つ石壁がおよそ 50m にわたり接続しており、地表面による観察から公共空間や居住空間というような空間の機能を推察することは叶わない。地表面に散布する土器はチムー文化の特徴を持つものが非常に多く、形成期の特徴を持つ土器を確認することはできなかった。報告されている形成期の土器と上記の建築との関係は不明瞭である。

セロ・ウレーニャ遺跡は同様にカルデナスによって報告されている形成期の遺跡である [Cárdenas 1998]。サンタ川北岸のパナアメリカン・ハイウェイ沿いにある低い丘の上に立地しており、円錐形のアドベ（日干しレンガ）で作られた、基壇と円形の広場、小規模の部屋状構造物群からなる。

グアダルピートなどの遺跡周辺の町の住人は、この遺跡の存在を認識していない。報告されている遺跡の地図と住民への聞き込みから、遺跡はサン・イグナシオ（かつてウレーニャという村名だった）という村の下に現在埋もれていることがわかった。サン・イグナシオは山岳部からの移民によって 1970 年代から拡大した村であり、その際に遺跡は完全に破壊されてしまったようである。サン・イグナシオの住民の持つ、家の敷地内で出土した完形土器を観察したが、チムーおよびモチェ文化のものであった。

（2）ネペーニャ川下流域

訪れたのはロス・チーノス遺跡である。ロス・チーノス遺跡は同名の村（現在はロス・チムスと呼ばれる）の近郊に位置する遺跡で、先土器時代を含む形成期の早い段階の貝塚、小規模部屋状構造物が報告されている [Proulx 1973]。

ロス・チーノスの住民の案内のもと、村でワカ・ネグラと呼ばれる遺跡を訪れた。車道から 50m ほど離れた丘の上であり、アクセスは容易。海岸線からは 1km ほど離れている。およそ 40 m² に及ぶ墓地遺跡であり、無数の盗掘坑と人骨、土器、布などが散布していた。土器はチムー文化に相当するものであり、わずかに残るアドベの建築も墓地に付随するものと思われる。この他、建築を持つ遺跡は確認できなかった。

（3）カスマ川下流域

トルトゥガス、ワイヌナー、パイア・セカ、ラス・アルダスという 4 つの遺跡を訪れた。

トルトゥガス遺跡はポゾルスキー夫妻によって 1986 年に発掘調査された形成期の居住遺跡である [Pozorski and Pozorski 1987]。同名の村の湾岸に位置しており、海岸線から数十メートルしか離れていない。しかし、現在はコンクリートで舗装された船着き場、タクシーのターミナル、レストランが遺跡の上に建っており、遺跡は破壊されている。

ワイヌナー遺跡はポゾルスキーらによって発掘調査された形成期の遺跡である [Pozorski and Pozorski 1987]。トルトゥガス湾の北隣に位置するワイヌナー湾の湾岸に位置しており、先土器時代にあたる公共建造物、居住用建造物が報告されている。遺跡はトルトゥガス村から 1km、車で 5 分ほどのところに位置するが、その大部分が貝の養殖工場の建設によって破壊されており、貝塚が数か所残るのみであった。

バイア・セカ遺跡は同様にポゾルスキーらによって調査された遺跡である [Pozorski and Pozorski 1998]。遺跡はトルトゥガス村とプエルト・カスマ村の中間地点にある、海岸線に面した小高い山の東側の裾野に位置している。およそ 20m×20m の方形の基壇と部屋状構造物からなる石製の公共建造物である。トルトゥガス村から 2km、車で 15 分ほどの距離にある。かなり崩れているが壁と構造物の形状が確認できる。公共建造物の北側 20m ほどの位置に 2m 大の円形の構造物がいくつか存在するが、非常に不明瞭である。

ラス・アルダス遺跡はこれまで様々な研究者によって発掘調査が行われてきた形成期の遺跡である [Pozorski and Pozorski 1987, Matsuzawa and Shimada 1978 ほか]。カスマという町から 30km ほど離れた沿岸に位置しており、40ha にもおよび基壇や広場が連なっている。基壇状の建築物から数十 m 南東に離れたところには、簡素な石壁や小さなマウンドが散在する。

(4) クレブラス川下流域

プラヤ・クレブラス遺跡を訪れた。プラヤ・クレブラス遺跡はランニングらによって 1950 年に発掘調査され、複数の住居址、小規模な基壇状の構造物の存在が報告される遺跡である [Engel 1958]。クレブラスと呼ばれる、海岸線に面した丘の北側裾野に位置しており、クレブラスから 500m 離れたラ・ペルーという湾に面している。この湾に現在人は住んでいないが、30 年前までは魚加工工場が稼働していたため、周辺には当時の建造物群が存在する。報告されているような形成期の建造物は見受けられないため、30 年前の建造物ができるときに破壊されてしまったようである。数十 m 離れた丘の上には、墓地が広がっており激しく盗掘されている。無数の遺骸とともに、チムー文化の土器が出土している。こうした墓地は 3 地点で確認できるが、形成期の土器は確認できなかった。

(5) ワルメイ川下流域

ロス・ガビラーネス遺跡を訪れた。ワルメイという町から 3km ほど離れた沿岸に位置している。小型の部屋状構造物などが報告されている形成期の遺跡である。数地点で墓地遺跡を確認したが、チムー文化にあたる土器が多く散布していた。報告にあったような構造物は確認できなかった [Bonavia 1982]。

参考文献

Bonavia, D.

1982 *Los gaviñanes*. Talleres Graficos.

Cárdenas, M.

1998 Material diagnóstico del Periodo Formativo en los valles de Chao y Santa, costa norte del Perú. *Boletín de Arqueología PUCP*(2), 61-81.

Engel, Frédéric-André

1958 Algunos datos con referencia a los sitios precerámicos de la costa peruana. *Arqueológicas* 3:1-52.

Matsuzawa, T., and I. Shimada

1978 The formative site of Las Haldas, Peru: architecture, chronology, and economy. *American Antiquity* 43(4), 652-673.

Pozorski, S. and T. Pozorski

1987 *Early settlement and subsistence in the Casma Valley, Peru*. University of Iowa Press.

1998 La dinámica del valle de Casma durante el Periodo Inicial. *Boletín de Arqueología PUCP*, (2), 83-100.

Proulx, Donald A.

1973 *Archaeological Investigations in the Nepeña Valley, Peru*. University of Massachusetts.

●本事業の実施によって得られた成果

【本事業の成果】

本事業の実施により、北部中央海岸沿岸部の諸遺跡の現況を把握し、調査対象の選定に向けた様々な情報を獲得することができた。情報収集の結果、北部中央海岸沿岸部の遺跡の多くは、近年における町の拡大によって破壊され、予想以上に遺跡の保存状況は良くないということがわかった。本事業だけでは、調査対象の選定を完了することはできなかったが、少なくともラス・アルダスやバイア・セカなどの若干の遺跡が調査対象の候補地として残ったことで、調査対象の選定に向けた大きな成果を得ることができたと言ってよい。

本事業によって得られた成果から、現代における町の拡大が少ない涸れ谷や、北部中央海岸を越えたより広い範囲で保存状況や条件の良好な遺跡を探し、検討を重ねていく必要がある。

●本事業について

研究の前段階にあたるような本事業は、独創的で具体的、そして堅実な研究計画を立てる上で非常に重要な作業であり、博士課程の研究を建設的に進めていくためには欠かせないものである。しかし、そのような事業は調査資金の獲得が難しく、容易に行うことはできない。このような現状において、学生への支援体制としての学生派遣事業は本学の大きな魅力の一つであるといえる。特に、本事業のような渡航費の多くかかるフィールドで調査活動を行うためには、欠かせない制度である。以上のようなことから、今後もこのような事業が継続されることを希望している。